

国内外で約 33,478 人が挑戦 万全の新型コロナ対策で実施 2020(令和2)年度第2回日本語検定



日本語の総合的な能力を測る「日本語検定」(略称・語検、文部科学省後援事業)の2020(令和2)年度第2回(通算第28回)検定試験が11月13、14日に行われました。国内は47都道府県の一般会場と、学校や会社の施設を利用した609カ所の準会場で、海外はアメリカ・グアムとアイルランド・ダブリンの計2カ国2カ所で実施。国内外を合わせた計33,478人が受検しました。受検者の最年長は大阪府大阪市の91歳の女性、最年少は東京都と神奈川県の子供の6歳です。

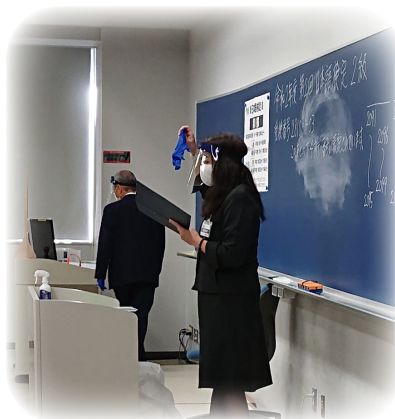
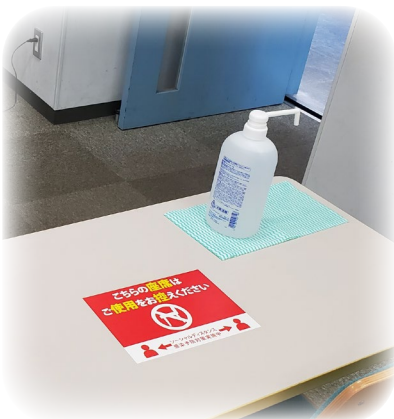
「語検」は「敬語」「文法」「語彙(ごい)」「言葉の意味」「表記」「漢字」の6つの領域にわたり、日本語を正しく使えるかどうかを測るものです。難易度に応じて1級から7級に分かれており、幅広い年齢層がそれぞれの級の認定の取得に挑戦できます。合格発表は12月に受検者に郵送で通知するほか、公式ホームページにも速報を掲載します。

◆机や椅子を除菌し3密を回避

新型コロナウイルス感染症の拡大により、6月に予定されていた2020(令和2)年度第1回試験(通算第27回)は中止となっていました。第2回試験は、感染防止のため、政府の基本的対処方針やガイドラインを踏まえ、各会場で万全の対策を講じて実施されました。

受検者に対しては、当日に必ず検温を行い、37.5度以上もしくは平熱を越える発熱があるなど、体調がすぐれない場合は来場を控えるよう要請。検定会場では必ずマスクを着用し、手指消毒や手洗いの徹底もお願いしました。

検定教室では、窓や扉を開けて換気に努めたほか、机や椅子を除菌スプレーで除菌しました。受検者の座席は、1机1人を基本(1メートル以上の間隔が取れる場合は1机2名も可)とし、受検者が3密の状態にならないようにしました。



◆ 東京会場では 783 人が受検

東京の一般会場は大正大学（豊島区）で、計 783 人が受検しました。この日の東京は終日晴天に恵まれ、大学付近の正午ごろの気温は 19 度とさわやかな天候。午後の試験の受付を待つ間、屋外のベンチで問題集を見直す受検者の姿も見られました。会場では要所要所にアルコール消毒液が置かれ、受検室の座席は、長机の左右の端に一人ずつが交互に着席するなど、3 密回避の配置に。問題の配布・回収も、係員がビニール手袋を着用して行っていました。



「ゲーム作りにも日本語力」

今回初めての受検で 2 級を受けたという 24 歳の豊島区在住の男性は、ゲームのプログラマー。「ゲーム作りと日本語検定？」と思うかもしれませんが、この男性によると「ゲームを作る仕事はさまざまな職種の人と一緒にチームプレーで進める部分が多く、言葉によるコミュニケーション能力が必要とされる」のだそうです。受検対策はテキスト中心で、「漢字はちょっと難しかったけど、それ以外はなんとかなりました」と自信をのぞかせていました。



「クイズ感覚で楽しい」

午前の試験時間に、屋外のベンチで待っていたのは豊島区在住で、8 歳の小学 2 年生の男の子のお母さん。「読売 KODOMO 新聞」に乗っていた 6 級の問題（小学校 4 年相当）の問題をやってみたところ、解けたのがうれしくて、実際に受検してみることにしたそうです。「普段、学校ではやらないような問題があり、子どもにとってはクイズのような感覚もあって楽しんでチャレンジできたようです」と話してくれました。

「IT 企業のロシア人女性」

足立区在住だという 28 歳のロシア国籍の女性は、今回初めて 2 級を受検しました。日本に留学し、現在は IT 関連企業に就職して 4 年目とのこと。日本語の会話には不自由しないほどの力がありますが、「もっと日本語が上手になりたいと思いました。そのためには（受検という）目標があった方がいいので」と話していました。



「将来は高校の国語教師に」

幼稚園から大学まである学校の高校2年生だという女性は世田谷区在住で、今回初めて2級を受検。「日本語検定合格が、内部進学で大学の文学部に進むための一つの条件になっています」というこの女性、将来の夢は高校の国語の先生だそうです。対策は過去問をやったと話してくれました。

「会社が給与面で優遇措置」

埼玉県在住の33歳の女性は、今回が初めての受検ですが、1、2級をダブルで受検していました。教育系のシステム開発を行う会社に勤務しており、日本語検定に通ると会社から手当が出るということです。「給与面だけでなく、ビジネスマナーを身につけるにも役立つと思って受検しました」と話してくれました。準備はテキスト中心で、漢字一字一字の意味を考えるなど日頃から言葉に注意を払っているということでした。

「大学のサークル活動でも」

午前の試験の終了後に若い5人組が楽しそうに話していました。「広辞苑倶楽部」のみなさんです。広辞苑倶楽部は、上智大学の学生を中心とした学生のサークルで、辞書や日本語を題材にした遊び、イベントで楽しんでいるということです。この日の受検者は上智大4年男性（1、2級ダブル受検）、慶応大3年男性（2級）、上智大4年女性（1級）、上智大1年男性（2級）、聖心女子大2年女性（2級）という顔ぶれ。日本語検定の活用方法にもいろいろあるようです。

（時事通信社編集局 伊豆倉 哲）

文部科学省後援事業 日本語検定

次回
予定

2021年度 第1回 (通算第29回)

一般会場 6/12(土) 準会場 6/11(金)・6/12(土)

申込期間 3/1(月) ~ 5/14(金)